

7月12日(土)午後、京都大学 iPS 細胞研究所で開催された「やさしい科学技術セミナー」(国際科学技術財団主催)に本校より1-3年生44名が参加しました。

前半は、研究員の遠藤慧氏より、DNAについて、最新映像を交えたお話を聞きました。後半は、家庭にある洗剤、食塩、アルコールを使って、バナナのDNAを目で見る実験をしました。参加者の皆さんは、DNAを目で見られたことに驚いていました。最先端の研究に触れることのできた1日でした。

科学の面白さ体感

簡単実験で「DNA見られた」

京大 iPS 研でセミナー 生徒ら最先端研究に驚き

科学の面白さ体感

国際科学技術財団(東京都)が主催した。科学の魅力子どもたちに伝えようと、同財団が研究助成する研究者を講師に全国各地で



科学の研究者が専門分野を分かりやすく解説する「やさしい科学技術セミナー」が12日、京都市左京区の京都大 iPS 細胞研究所で開かれた。同研究所の研究員が細胞や遺伝子をテーマに語り、府内の中学生約60人が実験や仮説を立てる面白さを体感した。

開いている。この日は iPS 細胞研究所の遠藤慧・特定研究員(32)が、細胞の構造や遺伝子が働く仕組みなどを紹介。細胞の中をロボットの世界に例え、「想像

た。(後藤削平)

バナナから抽出したDNAを見て驚く中学生(京都市左京区・京都大 iPS 細胞研究所) 力を持って研究することが大切」と語りかけた。バナナからDNAを抽出する実験では、果実を手でつぶしてフィルターでろ過し、食塩やアルコールを混ぜてビンの中に入れて白いDNAの塊を出現させた。友だちと参加した同志社中3年の川口君(14)は「家庭にある物でできる簡単な実験でDNAが見られて驚いた。最先端の研究の一部に触れたよううれしかった」と話した。